

2026 2/24

No.2253

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —

第47回 ヨコハマ映画祭

映画ファンのための熱いまつり



横浜の映画ファンが中心となって運営する「ヨコハマ映画祭」の表彰式が、関内ホール（横浜市中区）で行われた。映画「国宝」が作品賞など7部門で受賞した。



第47回 ヨコハマ映画祭

(「政経かながわ」)

政経かながわ

2026 2/24 No.2253

contents

視点・点描	3
有権者の新しい動き	
講演録	4
なぜ働いていると本が読めなくなるのか 文芸評論家 三宅 香帆	
特集	8
自民「大勝」の光と影 真の評価は「2年半後」に	
経済双眼鏡	12
ダボスで激突の欧米 決断を迫られる日本	
水谷竹秀×リアルワールド	13
停電と極寒に絶望 侵攻4年	
神奈川景気データファイル	14

事務局だより

◇2026年3月講演会と見学会
3月11日午後3時～4時30分
横浜市立大学オープンイノベーションラボ (横浜市金沢区)
講師：同大共創イノベーションセンター長 留目 真伸氏

◇2026年4月定例講演会
4月21日午後1時30分～2時45分
ロイヤルホールヨコハマ (横浜市中区)
講師：JFEホールディングス 専務執行役員 岩山 眞士氏

◇2026年5月定例講演会
5月22日午後1時30分～3時
メルヴェーユ (桜木町駅近く)
講師：神田外語大学教授 興梠 一郎氏

【お知らせ】会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



有権者の新しい動き

衆院選（定数465）の結果には驚かされた。自民が神奈川の全20選挙区を制するなど単独で3分の2を上回る大勝の一方、公明と新党を結成した野党第一党の立憲民主が想像以上の惨敗を喫したからだ。そしてもう1党、注目を集めたのが11議席を得た「チームみらい」。比例南関東ブロックでも4番目の得票（得票率9・2%）

で3議席を手にしたのだ。大きく票を伸ばした両党に絞って勝因を探った。

▽未来志向とスピード感

権力とは、将来をより良くするための選択肢を示し、説得しながら行使していくものだ。衆院選で、首相の高市早苗氏は「強い未来をつくろう」と語り、みらい党首の安野貴博氏は「未来は明るい」と信

じられる国をつくる」と訴えた。

ともに将来への前向きな発言を繰り返していたのが印象的だった。

両党のトップは「旧来の政治家像」にはいないタイプでもある。

高市氏は料亭での会合に見向きもせず、自党の重鎮に相談することなく解散総選挙を決めた。独断とも映るが、根回しや先輩のメンツを立てることよりもやるべき事を進めることを優先する。

一方の安野氏は、デジタルやAI（人工知能）を使って経済や政治を改善していくことで、困っている人たちに必要な行政サービスや給付金を素早く届けられると説き、技術に詳しい者が国会に参画する重要性を訴えてきた。「政治資金の収支を見える化する仕組み」もつくり、既に自党だけでなく各党でも使われ始めている。行動に移すスピード感は、有権者からの信頼につながったのではない

か。

▽有権者が見定めたもの

昨秋以降、首相になった高市氏は矢継ぎ早に政策に取り組んできた。連立を組む維新の高校無償化に賛意を示し、他党が強く訴えたガソリンの暫定税率を撤廃。衆院選では各党が消費減税を打ち出すと、限定的ではあるが消費減税に言及。選挙後には各党と議論する国民会議の設置も約束し、他党の売りの公約を吸収していった。

着々と改革を進めていく両党トップの動きは、無党派だけではなく、リベラルな政党を支持し変革を求めてきた有権者にも響いたのではないか。新党「中道」からの票の流出は、「風」ではなく地殻変動に思える。具体的な将来像を示せない政党は、淘汰されかねない時代を迎えている。

（神奈川新聞社統合編集局

編成部長・佐藤 英仁）